



## 新型コロナウイルスの5カ月間のメモより

埼玉大学名誉教授

河西敏雄 KASAI, Toshio

(当協会 顧問/光部品生産技術部会 名誉顧問)

「焦点」の執筆依頼をお引き受けしたのが昨年末である。年度が平成から令和に改まり、初めての正月を迎えた。題材を何にしようかと思案していたところ、新型コロナウイルスの猛威をテレビや新聞等を見て唖然とし、そのままなんと5ヶ月も過ぎてしまった。人類にとっての生活の器とも言える地球がひっくり返るような大事件である。ここではこのウイルス感染を取り上げてみた。

新型コロナウイルス感染の6月7日の現状は、全世界で感染者6,896,179人、死者399,785人、回復者3,087,315人である。さらに詳細として1位の米国で感染者1,959,009人、死者111,374人、回復者457,721人、2位のブラジルで感染者676,404人、死者36,044人、回復者302,084人、3位のロシアで感染者458,689人、死者5,725人、回復者221,388人、4位のスペインで感染者287,740人、死者27,135人、回復者150,376人、5位の英国で感染者284,818人、死者40,465人、回復者？人、6位のインドで感染者247,196人、死者6,950人、回復者119,293人、7位のイタリアで感染者234,801人、死者33,846人、回復者165,078人であり、44位の日本は感染者17,103人、死者914人、回復者15,079人、東京都は感染者5,295人、死者363人、回復者4,623人である。

最初の症例は、2019年11月17日中国湖北省の男性の可能性があったが、中国当局はデータ公開をしなかった。12月8日になって湖北省武漢市で原因不明な肺炎患者が出たことが初めて報告された。30日に李文亮医師による公文書の画像投稿があり、それが31日にWHOへの最初の報告になった。2020年1月7日頃から新型のコロナウイルスと称するようになり、2月11日にWHOがこのウイルス感染による疾患をCONVID-19と命名、またICTVがこのウイルスをSARS-CoV-2と分類・命名している。

新型コロナウイルスは感染力が非常に強い。感染すると風邪症状の発熱から始まり、肺炎に、それが重症化すると酸素吸入、次いで人工心肺を用いる治療になる。最悪の場合は手の施しようがなくなって死に至る恐ろしい病原体である。

米国国立アレルギー感染症研究所などの報告によれば、このウイルスは空気中で3時間生存、銅製品表面4時間、厚紙表面24時間、プラスチックやステンレスの表面2~3日生存する。一方、湿度に弱く、加湿器などで、湿度50%、摂氏22度でウイルスの活動が収まることが判明しているようである。

通常は、患者との接触あるいはそれに類する行動による人-人感染である。感染時点は、個人差があるが、症状が現れる1~2週間前と言われている。潜伏期や無症状の感染者がウイルスを撒き散らすといった特異なところがあって始末が悪い。とくに高齢者や基礎疾患をもつ人が重症感染者になり易いといわれ、WHOは中国の少し前のデータ分析を行って死亡率の比較を行っている。武漢の死亡率5.8%、中国全体で3.8%であった。また高齢者の死亡率として80代で21.9%である。感染者全体

で軽症が 80%、重症が 13.8%、危篤が 6.1%であった。

感染の広がりについては、感染者の身近は当然であり、航空機、自動車、列車などを利用して国内外や大陸間を移動したとき、その出先でコロナウイルスを撒き散らしてきた結果であろう。一人の感染者の移動が飛び火状態で新たな感染者集団のクラスターを形成し、広がったと思う。

感染域は、中国武漢市付近から国内に、その勢いは収まることなくユーラシア大陸、アフリカ大陸、オーストラリア大陸、北米大陸、南米大陸へと全世界に向う。WHO は、3月11日に世界各地の流行をみてパンデミック状態に陥ったと宣言した。

世界のウイルス感染は、以下のように多国に及ぶことになった。

2020年1月、中国武漢で感染が始まる。当初は規模の小さい感染であったであろう。しかし12日には肺炎患者41人と死者1人を出し、27日には広く中国内に死者80人、さらに31日になると感染者10,000人を超えるほどの恐ろしい感染力を示し、緊急事態になった。13日にはタイで感染者確認、16日には日本で、19日には韓国で確認された、日本の場合、6日に中国武漢市から日本に帰国した30代中国男性が新型コロナウイルスに感染していて直ぐに入院、15日に回復・退院している。また20日に、集団感染を引き起こしたクルーズ客船ダイヤモンド・プリンセス号が3,711人の乗員乗客を乗せて横浜港を出港した。

21日には、台湾、米国で、22日にはマカオで、23日には香港、シンガポール、ベトナム、24日にはネパールで、25日にはマレーシア、フランス、オーストラリアで感染者が確認された。日本国内では女性ガイドが武漢からのツアー客より感染、また武漢からの日本人帰国者の2人が無症状であっても他に感染させることが判明し、潜伏期の人からの感染に注意する必要がでてきた。

27日にはカンボジア、スリランカ、ドイツ、カナダで、29日にはアラブ首長国連邦、フィンランドで、30日にはフィリピン、インド、イタリアで、31日にはロシア、スウェーデン、イギリス、スペインで感染者が確認され、WHOは国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態宣言を行った。

2月に入ると、1日にクルーズ客船の男性1人が香港で下船。後の検査で感染していたことが確認。5日に横浜港に寄港、集団感染が判明し、乗船のまま約14日間の隔離措置、現実には3月1日に全員下船になった。全乗員乗客のうち感染者712人と死者13人が確認され、また厚生労働省職員1人と内閣官房職員1人も感染していた。2日にフィリピンで中国外初の死者発生。4日にはベルギーで感染者を確認。なお7日に最初に新型肺炎の報告を行った中国の李文亮医師が死亡した。

8日に武漢で日本人男性の初の新型肺炎による死亡。中国全体で感染者42,000人越え、死者1,011人になった。13日にカンボジアに入港したクルーズ客船ウエステルダム号の乗客の日本人男性が感染していた。そのほか国内感染の80歳の日本女性が死亡している。

14日にはエジプトで感染者確認、15日にフランスで初の死亡者確認。16日に台湾で死亡者確認、19日にイランで感染者と死亡者確認。21日にレバノン、イスラエルで感染者確認。日本では感染者100人越える。

24日にはアフガニスタン、イラク、クウェート、バーレーン、オマーンで、25日にオーストリア、スイス、クロアチア、アルジェリア、ブラジルで、26日にパキスタン、ジョージア、ルーマニア、ノルウェー、北マケドニア、ギリシャ等で感染者確認。日本で2人目の死亡者の確認。韓国で感染者1,000人越え。27日デンマーク、エストニア、ベラルーシ、オランダ、サンマリノ、ナイジェリア、メキシコ等で感染者確認。28日にアゼルバイジャン、アイスランド、リトアニア、モナコ、ニュージーランドで、29日にカタール、アイルランド、ルクセンブルグ、エクアドル等で感染者確認。イタリアで感染者1,000人を越える。

3月には、1日にアルメニア、チェコ、ドミニカ共和国で、2日にはインドネシア、サウジアラビア、ヨルダン、ラトビア、アンドラ、ポルトガル、チュニジア、モロッコ、セネガルで、3日にウクライナ、リヒテンシュタイン、アルゼンチン、チリで、4日にポーランド、ハンガリー、スロベニアで、5日にパレスチナ、ボスニア・ヘルツゴビナ、南アフリカ共和国で、6日にブータン、スロバキア、

セルビア、バチカン、カメルーン、トーゴ、コスタリカ、コロンビア、ペルー等で感染者確認。世界全体で感染者 100,000 人を越える。

7 日にモルティブ、モルドバ、マルタ、パラグワイで、8 日にバングラデシュ、ブルガリア、アルバニア等で感染者確認。全世界で感染確認国等が 100 越え。9 日にブルネイ、キプロス、ブルキナファソ、パナマで、10 日にモンゴル、トルコ、北キプロス、コンゴ民主共和国、ジャマイカ、ボリビアで、11 日コートジボワール、ホンジュラス、キューバセントビンセント・グレナディーン、ガイアナ等で感染者確認。世界の各地の流行を WHO がパンデミック相当とした。12 日にスーダン、ケニア、ガボン、ガーナ、トリニダード・トバゴで、13 日にカザフスタン、コソボ、エチオピア、モーリタニア、ギニア、グアテマラ、アンティグア・バーブーダ、セントルシア、ベネズエラ、スリナム、ウルグアイ等で感染者確認。

14 日にはルワンダ、セーシェル、中央アフリカ共和国、赤道ギニア、コンゴ共和国、ナミビア、エスワティニで、15 日にウズベキスタン、バハマで、16 日にソマリア、タンザニア、ペナン、リベリアで、17 日にモンテネグロ、ジブチ、ガンビア、バルバドスで、18 日にキルギス、ザンビア、エルサルバドル、ニカラグアで、19 日モーリシャス、チャド、ニジェール、カーボベルデ、ハイチ、フィジー等で感染者確認。イタリアの死亡者数が中国を越えて世界最多になる。20 日にエリトリア、ウガンダ、マダガスカル、ジンバブエ、パプアニューギニアで、21 日に東ティモール等で感染者確認。

22 日にはモザンビーク、ドミニカ国、グレナダで、23 日にミャンマー、シリア、ベリーズで、24 日にラオス、リビアで、25 日マリ、ギニアビサウ、セントクリストファー・ネイビスで感染者確認。26 日に米国が中国、イタリアを抜いて世界最多の感染者数になる。30 日にはボツワナ、ルガンスク人民共和国で、31 日にソマリランド、ブルンジ、シェラレオネ等で感染者確認。

4 月には、2 日マラウイにおける感染者確認。世界全体の感染者 1,000,000 人を越えた。4 日に西サハラ、5 日に南スーダンで、6 日にサントメ・プリンシペで、10 日にイエメン等で感染者確認。世界全体の死者 100,000 人を越える。11 日に米国がイタリアを抜いて死者数が世界最多になった。16 日に世界全体の感染者 2,000,000 人を越えた。18 日に日本における感染者 10,000 人を、また死者 200 人を越える。

28 日に世界全体の感染者 3,000,000 人を、死者 200,000 人を越えた。米国の感染者 1,000,000 人を越えた。29 日にタジキスタンで、30 日にコモロ連合で感染者確認。

5 月には、10 日に世界全体の感染者 4,000,000 人を越える。13 日にレソトで感染者確認。21 日に世界全体の感染者 5,000,000 人を越えた。27 日には米国の死者 100,000 人を越えた。

6 月の感染者数等については、1~7 位までを最初にあげた。感染の起点となった中国は 18 位の感染者約 85,000 人とどまっている。

ところで 5 月末ごろ日本と欧米の感染者数に大差があることが奇跡的であるという話題がでた。どうもウイルス感染による高齢者の死亡率が高いことに関係するようである。ヨーロッパの各国では、全死者数の 50%前後が介護施設の高齢者である。例えばスペインが 57%、イタリアは 53%と高齢者施設の死者が国全体の死者の半数を超えており、フランス、ベルギーも 40%台と半数に近い死亡率である。日本は 14%にとどまる。さらには日本の介護施設のかねてからの感染防止策などが無視できない。それらは、「手洗い」「マスク着用」や「ソーシャルディスタンス」などであり、看護師や施設要員のための教育や本人たちの意識が高いなどをあげることができる。

世界の感染者数や死者数は、まだ増加傾向にある。しかし一時期の爆発的な拡大が収まってきたこともあり、経済再開の動きが活発化し始めた。さまざまな規制や制限は緩和の方向に、期間と段階を踏んで計画的に進めようとしている。

人類は、不運にもこの新型コロナウイルスに初めて遭遇した。効果が期待できるワクチンの製造・普及が待ち遠しい。多くの人々は、決定的な特効薬もなく、他のウイルス用の薬を転用・試用しているだけで、どちらかと言えば自然治癒を押し付けられ、薄氷を履む思いである。ウイルスは、感染し

て増殖していくときの DNA のコピーミスで変種・異質なものが生まれると言われる。中国武漢のウイルスは、現在猛威をふるっている米国やブラジルウイルスとは違いがあるのかも知れない。

我々は規制等の緩和が気の緩みにならないように心掛けたい。経済破綻が心配であるが医療崩壊を伴うような第 2 波の感染拡大も心配である。まずは第 2 波の感染者の急増があっても感染防具・薬品・医療器具・機器の類の準備，患者の収容病棟とベッド等の備え，医師を始めとする医療関係者等の態勢を整え，医療崩壊とそれに伴うパンデミック化を避けたいものである。